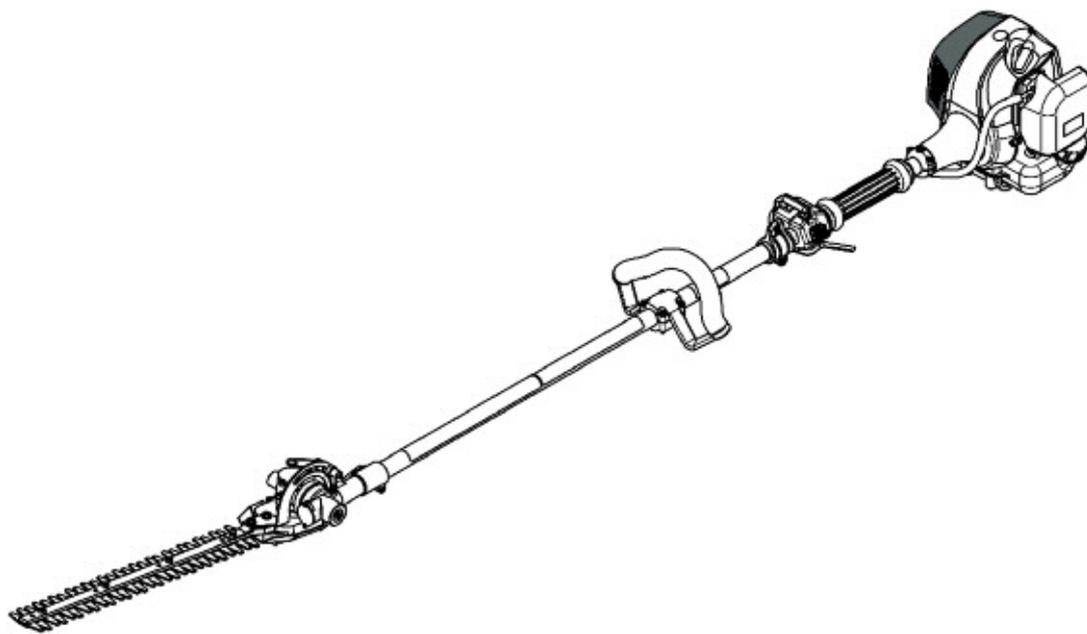


取扱説明書

バリカン刃型

刈払機



- ご使用の前には必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
- 取扱説明書に記載している指示内容を守ってください。誤った使い方をした場合、死亡事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- お読みになった後も必ず製品のそばに保管し、必要時には内容をご確認ください。

もくじ

○もくじ	1	○刈払作業	16、17
○重要なお知らせ		○日常の点検と整備	
使用目的・用途	2	定期点検一覧	18
取扱説明書について	2	各部ボルト・ナットの点検・増締め	19
お問い合わせ先	2	燃料漏れ・排気漏れの点検	19
○安全に作業するために		スロットルワイヤーの点検・調整	20
警告表示	3	エアクリーナの点検・清掃	20
警告ラベルの貼り付け位置	3	キャブレターの調整	21
一般的な注意事項	4	冷却風通路の点検・清掃	21
運搬時の注意事項	5	刈刃の点検・調整	22
○サービスと保証について	5	ギヤケースにグリース注入	23
○各部の名称	6	燃料フィルタの点検・清掃	23
○組み立て		点火プラグの点検・清掃	24
エンジンの取り付け	7	マフラー・シリンダのカーボン除去	24
ハンドルの取り付け	7	○長期保管する場合	25
ワイヤー関係の取り付け	8	○故障と対策	26
ギヤケースの取り付け	9	○振動障害の予防のために	27～29
○作業の準備		○仕様	差込
燃料	10		
肩掛バンド	11		
刈刃の角度調整	12		
○エンジンの始動と停止			
スロットルレバーの操作方法	13		
エンジンの始動	14、15		
エンジンの停止	15		

重要なお知らせ

◇ 使用目的・用途

⚠ 警告

- この製品はあぜ草刈り・剪定用（軽作業用）です。
あぜや道路まわり・空地・庭などの雑草刈りや剪定にご使用ください。
山林での使用など負荷の大きい作業には適しません。
- 使用目的以外には使用しないでください。
枝打ち・材木の切断などに使用しないでください。
事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- 製品の改造は絶対に行わないでください。
機械の破損により、重大な傷害を負う可能性があります。
- 初めて本製品を使用する方は、作業前に販売店などから使用方法の指導を受けてください。
使用方法を十分に習得してから使用しないと、重大な傷害を負う可能性があります。

◇ 取扱説明書について

⚠ 警告

- ご使用前には必ずこの取扱説明書を熟知するまでお読みください。
この取扱説明書には、製品の使用方法や取扱い上の注意事項について記載しています。
十分理解して正しく安全にご使用ください。
- 必ず製品のそばに保管し、いつでも内容を確認できるようにしてください。
- 本書を紛失・損傷した場合は、速やかに購入してください。
- 本製品を貸与または譲渡する場合は、必ずこの取扱説明書を添えてお渡しください。
事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- 別冊のエンジン取扱説明書も併せてお読みください。
機種によりエンジンが異なります。添付のエンジン取扱説明書もお読みください。

- 本書に使用しているイラストは分かりやすく簡略化しているため、ご購入いただいた製品とは内容およびイラストが異なる場合があります。
- 品質・性能向上あるいは安全上、予告なく変更を行うことがあります。その際は、本書の内容およびイラストなどの一部が、本製品と一致しないことがありますので、ご了承ください。

◇ お問合せ先

- 部品のご購入・修理・ご不明な点やお気付きの点がございましたら、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

安全に作業するために

◇ 警告表示

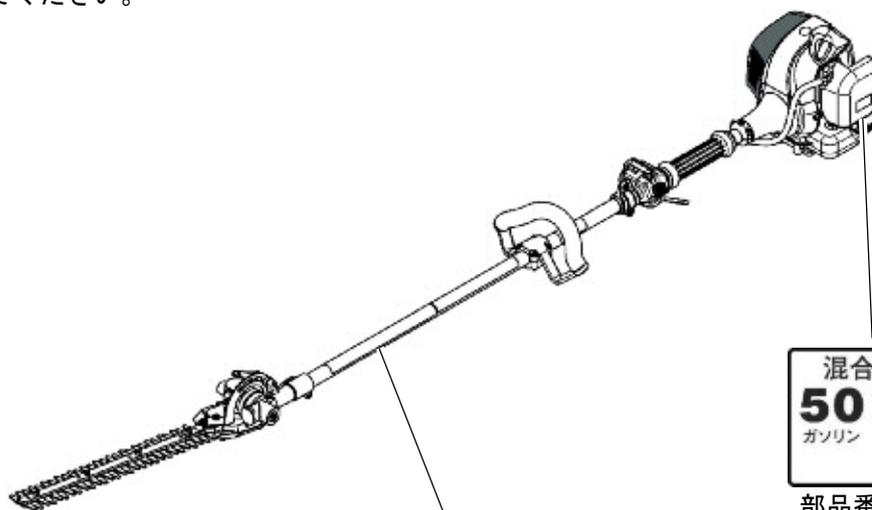
- 本製品を正しくお使いいただくにあたり、製品の使用方法及び取扱上の注意事項について、特に重要な項目を下記のマークにて表示しています。下記のマークに続く文章は、その注意事項を守らないと発生しうる結果を表しています。

▲ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。

	危険	守らない場合、死亡事故や重大な傷害を負うことになるものを示します。
	警告	守らない場合、死亡事故や重大な傷害を負う可能性があるものを示します。
	注意	守らない場合、傷害または製品の破損に至るおそれがあるものを示します。
		図案上にこの記号が付いている場合は、その図案の示している行為をすべて禁止することを表しています。

◇ 警告ラベルの貼り付け位置

- 本体に警告ラベルを貼り付けております。重要な注意点を示していますので、ご使用前に確認していただき、必ず守ってください。
- 警告ラベルは常に汚れや破損のないように保ち、破損した場合は新しいラベルを購入していただき、貼り替えてください。



部品番号 KW56356AA

部品番号 S900-061

▲ 注意	▲ 警告	▲ 危険
 ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること。	 移動時、保管時必ず安全カバーを取付けること。	 作業時の飛散物とキックバックに注意 防護具着用 排気ガス注意
 飛散防護カバー取外し禁止	 作業時半径15m以内立入禁止 S900-061	

安全に作業するために

◇ 一般的な注意事項

⚠ 警告

- 定期的に点検・整備をしてください。

点検・整備のされていない製品を使用した場合、重大な傷害を負う可能性があります。

- 次のような人は使用しないでください。

- 過労・病気・薬物の影響・酒気帯び・その他の理由により正常な運転ができない人
- 18才未満の若年者
- 妊娠している人
- 取扱説明書の内容を理解していない人

- 適度に休憩をとりながら作業をしてください。

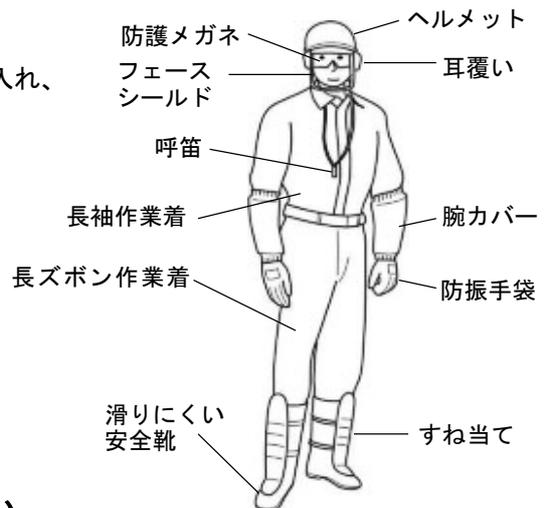
振動・騒音等により障害を受ける可能性があります。

27ページにある『振動障害の予防のために』を参考にして、一日の作業量を規制してください。

- 作業中に体調が悪くなった場合はすぐにエンジンを停止させ、作業を中止してください。服装及び装備は次のようなものを着用してください。

正しい服装で作業しないと重大な傷害を負う可能性があります。

- 身体に合った作業用長袖・長ズボン
袖口・裾口はまとめて腕カバーや作業長靴の中に入れ、だぶつかないように注意してください。
- ヘルメット
- 防護メガネ・フェースシールド
- 安全靴またはこれに準ずる靴（すね当併用）
- 防振手袋（丈夫ですべりにくい物）
- 耳覆い・耳栓
- 合図用の呼笛



- 次のような場所・状況で使用しないでください。

- 夜間や視界が悪い場所など、周囲や作業者の安全性が確認できない場所
- 降雨・雷鳴時など、天候が悪いとき
- すべりやすい場所や足場が不安定な場所
- 落石の恐れがある場所

転倒などにより重大な傷害を負う可能性があります。

- 作業前に作業場所を点検し、障害物を取り除いてください。

石・ビン・カン等が飛散して重大な傷害を負う可能性があります。

- 事故やケガに備え、応急処置が出来るような救急箱を用意してください。

緊急連絡先をあらかじめ定めておき、携帯電話等にて連絡が取れるよう備えてください。

- 火災には十分注意し、作業時には消火器などを用意してください。

安全に作業するために

◇ 運搬時の注意事項

⚠ 注意

- 運搬する場合には必ずエンジンを停止させ、刈刃にブレードカバーをつけてください。
- オートバイや自転車の荷台に載せて運搬はしないでください。
自動車等で運搬する場合には、動かないようしっかり固定してください。
事故等の傷害を引き起こすおそれがあります。
- 本体の上に重量物を置かないでください。
パイプのゆがみや各部の破損につながります。



ブレードカバー



サービスと保証について

- 保証書は保証修理を受けられる際に必要となりますので、大切に保管してください。
- アフターサービスについて

機械の調子が悪い時は26ページの「故障と対策」に従って点検・整備してください。

それでも直らない場合は、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

- 型式名と機体番号
- 作業の内容
- 使用時間
- 不具合の内容をくわしく

型式名 (参考)



機体番号 (参考)

機体番号 K000000

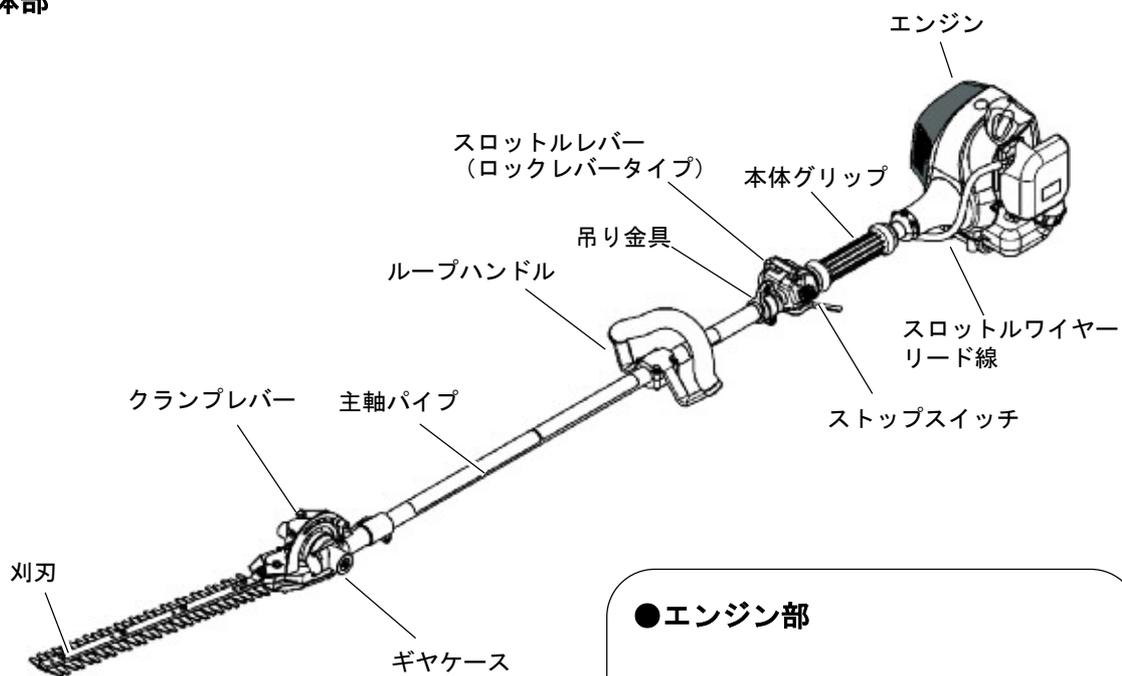
- 補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後約8年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期をご相談させていただく場合もあります。

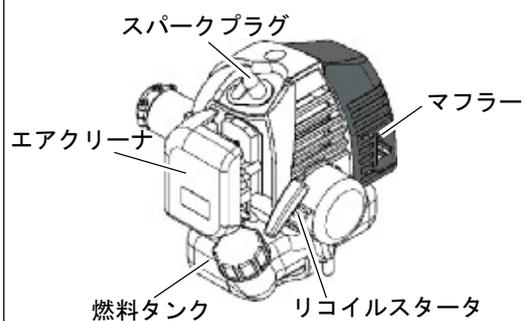
また供給年限を経過した部品についても、ご希望の場合は納期・価格についてご相談させていただきます。

各部の名称

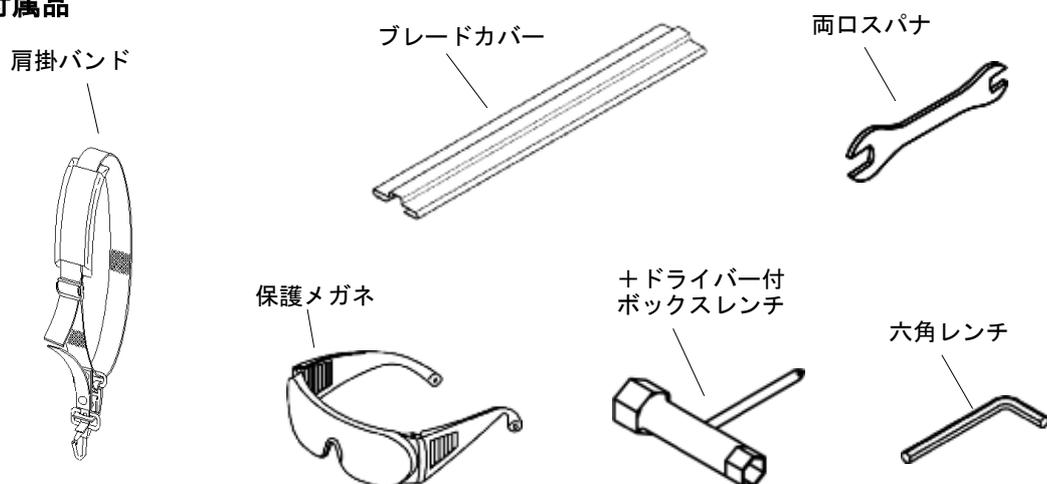
●本体部



●エンジン部



●付属品



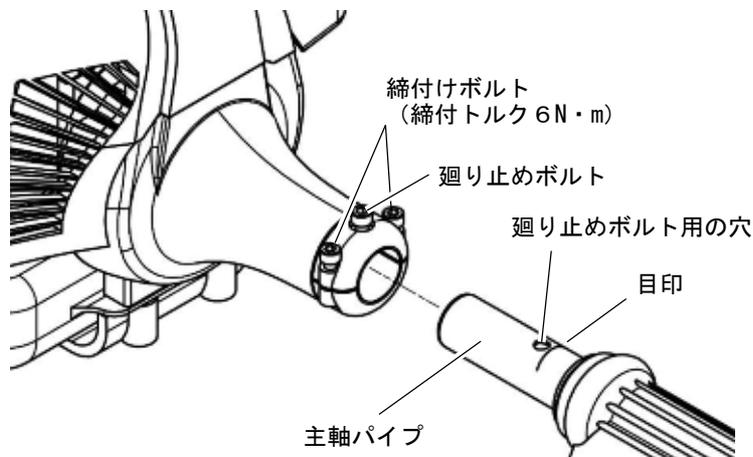
組み立て

◇ エンジンの取り付け

⚠ 注意

- 差込みタイプの場合、主軸パイプは目印までしっかりとエンジンに差込んでください。しっかり差込まず使用した場合、動作不良・シャフト破損の原因となります。

1. 本体を刈刃が下に向くようにしてエンジンに差し込みます。
2. 主軸パイプに付けられた目印までしっかり挿入してください。
3. 付属の六角レンチで廻り止めボルトをパイプの穴に合わせて締付けます。
4. 締付けボルトを六角レンチで締めて固定します。



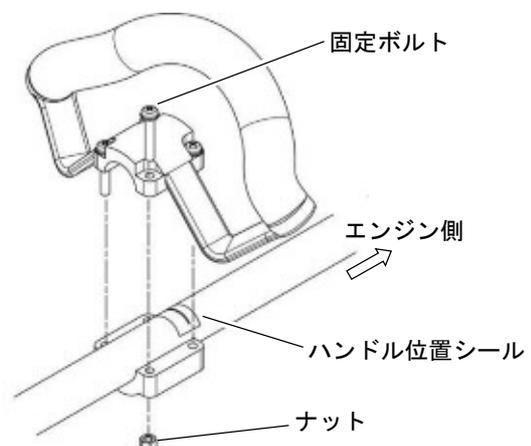
◇ ハンドルの取り付け

⚠ 注意

- ハンドルの傾き・前後位置は体型や作業姿勢に合わせて調整してください。過度な疲労や健康障害をおこすおそれがあります。

● ループハンドル (R) 仕様

1. 付属のボックスレンチでハンドルの固定ボルト4本を取り外します。
2. ハンドル位置シールを目安にして、位置をあわせてください。
3. 4本のボルトを締付けて固定して下さい。



組み立て

◇ ワイヤー関係の取り付け

⚠ 警告

● 使用する前には必ずスロットルワイヤーの調整をしてください。

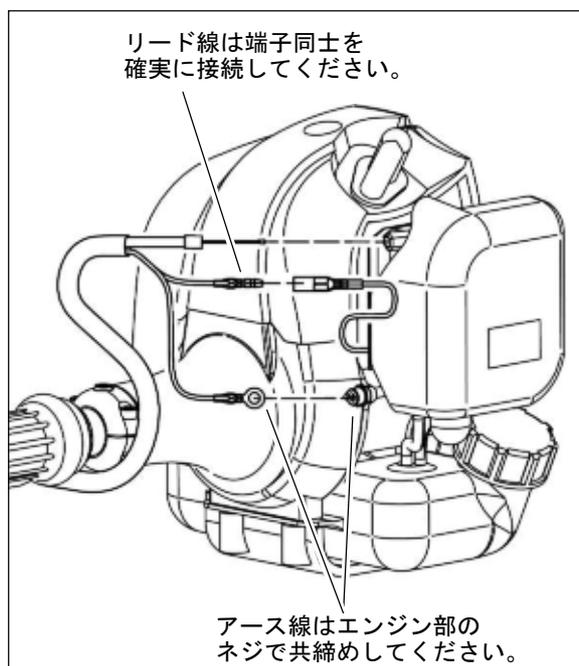
調整しないまま使用した場合、スロットル全閉状態でもエンジン始動と同時に刈刃が回転し始めることがあります、大変危険です。

● ワイヤー取り付け後、スロットルレバーがスムーズに動くことを確認してください。

● 必ず作業前に、ストップスイッチが正常に作動するか確認してください。

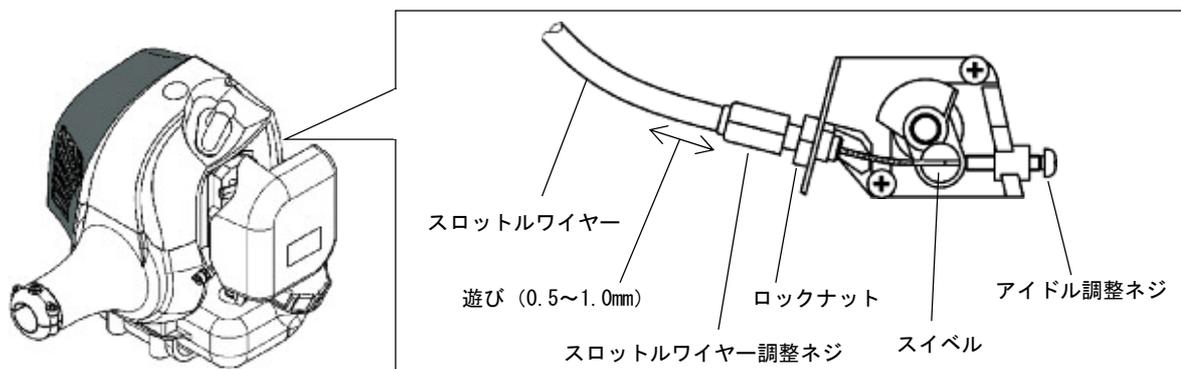
● ワイヤー関係の接続

1. スロットルレバーから手を離し、『全閉』状態にしてください。
2. スロットルワイヤー先端をスロットルワイヤー調整ネジに挿入します。
3. スロットルワイヤーの先端部をスイベル内に収まるようにはめ込みます。
※スロットルワイヤーの先端がスイベルに届かない場合、スロットルレバー側のワイヤーが外れている可能性があります。
4. ストップボタンのリード線端子をエンジン側の端子に接続します。アース側のリード線丸端子は、付属の工具を使用してエンジン部のネジに共締めします。



● スロットルワイヤーの調整

1. ロックナットを緩め、スロットルワイヤー調整ネジを回してワイヤーの遊びが0.5～1.0mmになるように調整し、ロックナットを締めて固定します。
2. スイベル部がアイドル調整ネジに当たっていることを確認してください。



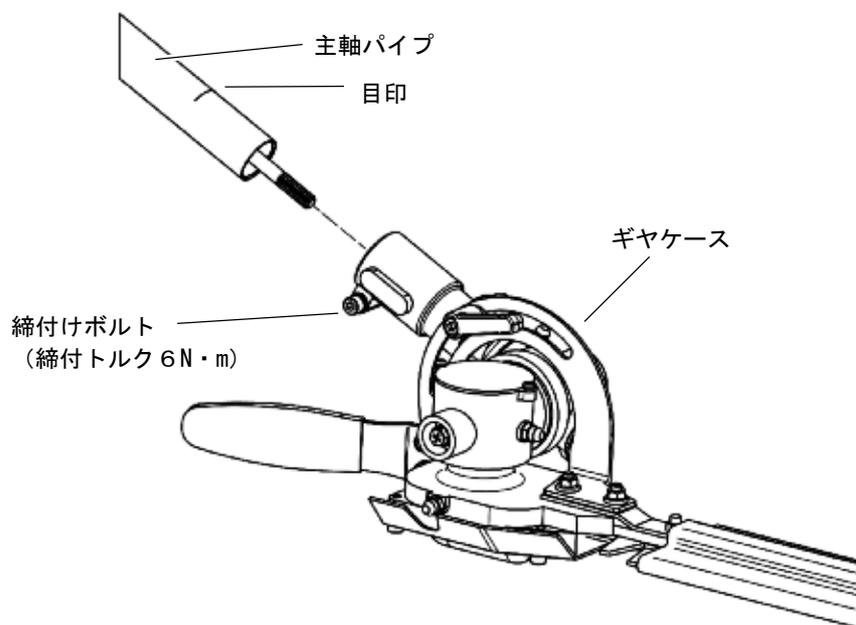
組み立て

◇ ギヤケースの取り付け

⚠ 注意

- 刈刃にブレードカバーを取り付け、必ず手袋を着用してから作業してください。
- ギヤケースは目印までしっかりと差込んでください。
しっかり差込まず使用した場合、動作不良・シャフト破損の原因となります。

1. 付属の六角レンチでギヤケースの締付けボルトをゆるめます。
2. 主軸パイプを挿入します。挿入位置マーキングまで差込んでください。
3. 刈刃が水平になるように傾きを調整しながら、締付けボルトを締めて固定してください。



作業の準備

◇ 燃料

⚠ 危険

- 火気を使用している付近で燃料の保管や給油、試運転をしないでください。
 - 燃料の給油は必ずエンジンを停止し、冷えた状態で行ってください。
 - 燃料の給油は屋内や換気の悪いところではしないでください。
 - 給油中にタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。
- 火災等の重大な事故や、火傷等の重大な傷害を負うことになります。

⚠ 警告

- 製品に火気を近づけないでください。
- 試運転・作業時のみ燃料を給油してご使用ください。
保管時は必ず燃料を抜いてください。
- こぼれた燃料は必ずきれいに拭き取ってください。
火災等の重大な事故や、火傷等の重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注意

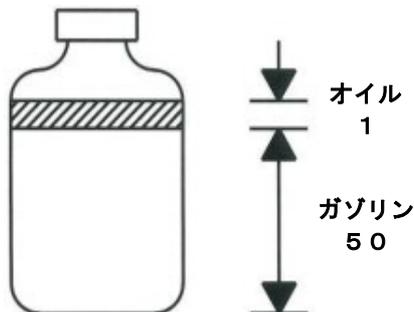
- 下記の内容を必ず守ってください。
 - エンジンオイルは必ず2サイクルエンジン専用オイルを使用してください。
 - 必ず指定の混合比で使用して下さい。
 - ガソリンとオイルは別の容器で十分混ぜ合わせてから給油してください。
 - 混合燃料は混ぜてから1カ月以内のものを使用してください。
- 焼き付きなど、エンジン故障の原因となります。

使用燃料はガソリンと2サイクル専用オイルの混合燃料です。

オイルは **JASO FC級** または **ISO-L-EGC級** を使用して下さい。

混合する割合（混合比）は下記のとおりです。

混合比
50 : 1



混合比の例

ガソリン (L)	オイル (cc)
1	20
2	40
5	100
10	200
20	400

作業の準備

◇ 肩掛バンド

⚠ 警告

- 作業前に必ず緊急離脱装置の作動確認をしてください。
正常に作動しない場合は使用せず、販売店へご連絡ください。

⚠ 注意

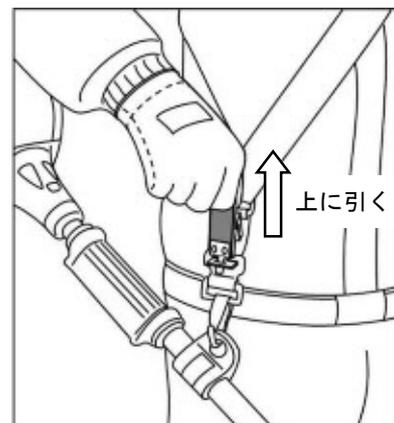
- 体型や作業姿勢に合わせて、肩掛バンド・ハンドル・吊り金具を調整してください。
過度な疲労や健康障害をおこすおそれがあります。

1. 肩掛バンドは下図のように装着し、刈払機を体の右側になるように吊下げます。
2. 刈刃が作業しやすい角度になるようにバックルで肩掛バンドの長さを調整してください。



● 緊急離脱装置

- 肩掛バンドには緊急離脱装置が付いています。
火災などの緊急時には、赤いベルト部分を上に引き、
刈払機を身体から切り離してください。



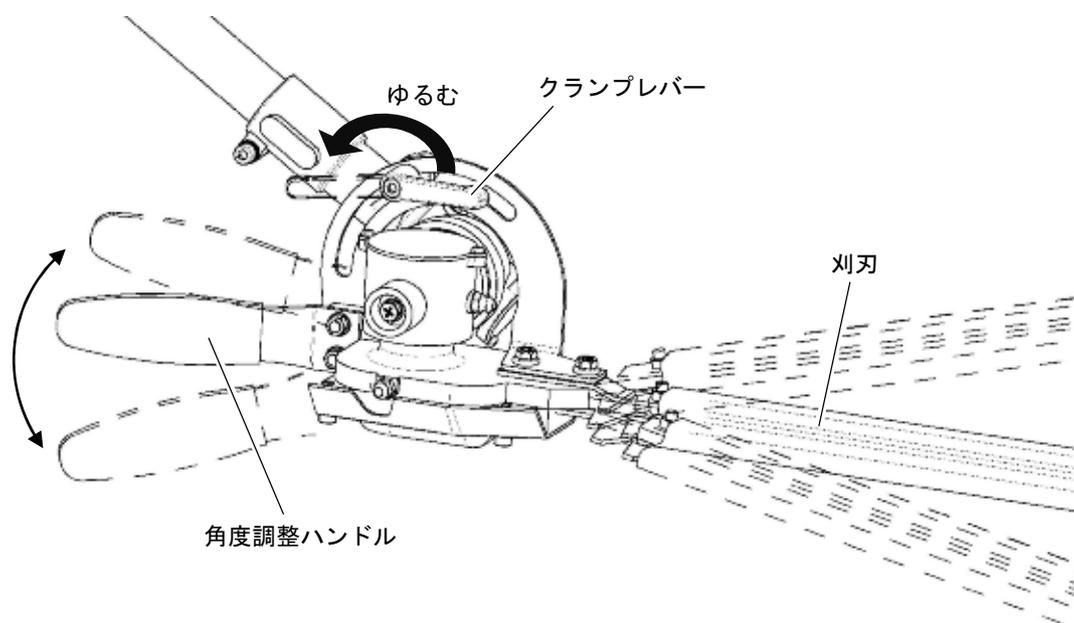
作業の準備

◇ 刈刃の角度調整

⚠ 注意

- 刈刃にブレードカバーを取り付け、必ず手袋を着用してから作業してください。
- 刈刃の角度調整は、必ず角度調整ハンドルを持って行ってください。
傷害を負うおそれがあります。

1. クランプレバーをエンジン側に回してゆるめてください。
2. 角度調整ハンドルを持って、刈刃を適切な角度に調整してください。
3. クランプレバーを刈刃側に回して、しっかりと固定してください。



エンジンの始動と停止

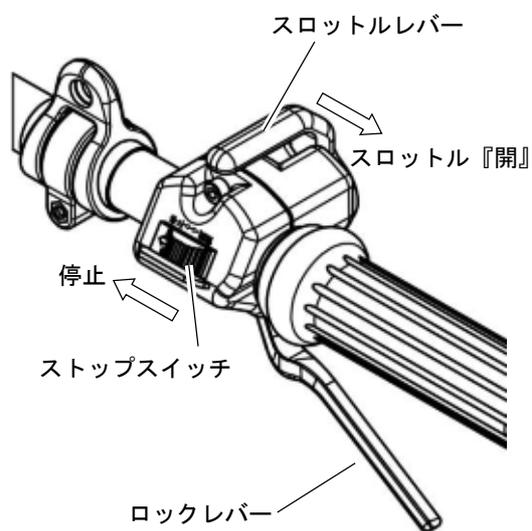
◇ スロットルレバーの操作方法

⚠ 警告

- 必ずエンジン始動前に動作確認をしてください。
- 正しく機能しない場合は絶対に使用せず、販売店へ点検・修理を依頼してください。
刈刃が止まらないなど、思わぬ事故により重大な傷害を負う可能性があります。

● ロックレバータイプ

1. ロックレバーを握るとスロットルレバーを動かせます。
2. スロットルレバーを手前に引くとスロットルは『全開』になります。
3. ロックレバーを離すとスロットルレバーが『全閉』に戻ります。
4. ストップスイッチは刈刃側が『停止』です。



● ロックレバータイプ

エンジンの始動と停止

◇ エンジンの始動

⚠ 危険

- エンジン始動時および運転時は絶対に刈刃に手や足を近づけないでください。
事故や重大な傷害を負うことになります。

⚠ 警告

- 屋内など換気の悪いところでは始動・作業をしないでください。

一酸化炭素中毒を引き起こすおそれがあります。

- 水平で安定した場所で始動してください。
- 始動時、刈刃のブレードカバーは必ず外してください。
- エンジン始動前に以下のことを確認してください。

- 各部のネジ・ボルトに緩みがないこと。
- 燃料漏れがないこと。
- 刈刃やスロットルレバー等が地面やその他の障害物に触れていないこと。
- 周囲 15 m の安全を確認し、15 m 以内に人や動物等がいないこと。
- 燃物（ガソリン、揮発性薬品類など）が近くにないこと。

思わぬ事故や重大な傷害を負う可能性があります。

- 始動時にロックレバーに触らないでください。

始動直後に刈刃が動き始め、思わぬ事故や重大な傷害を負う可能性があります。

- エンジンを始動させたら以下のことを確認してください。

- スロットル全閉状態で刈刃が動いていないか確認してください。（キャブレター調整→P 21）
- ストップスイッチが機能するか確認をしてください。
- 振動・音など異常がないか確認してください。

異常を感じた場合にはすぐにエンジンを停止させ、点検・修理してください。

- 運転中および停止直後にはシリンダーやマフラーなどの高温部には触れないでください。

火傷、火災等の重大な事故や傷害を負う可能性があります。

- 運転中にプラグキャップや高圧コードなどの通電部には触れないでください。

感電により重大な傷害を負う可能性があります。



⚠ 注意

- エンジン故障の原因になりますので、以下のことを守ってください。

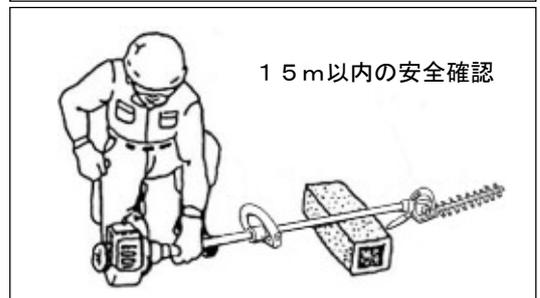
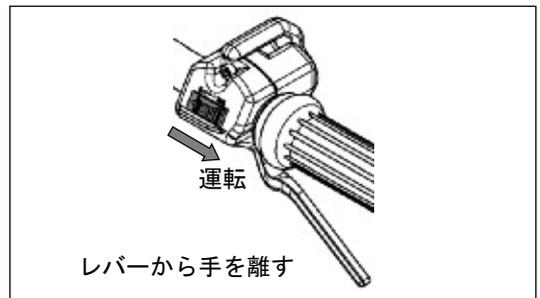
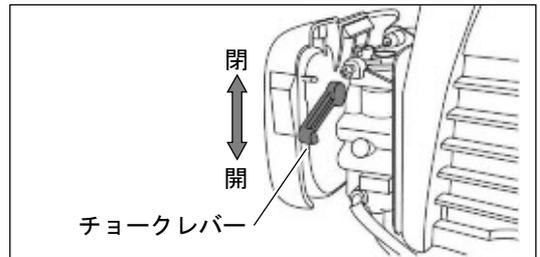
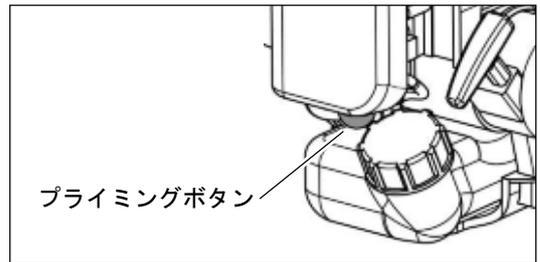
- エンジン始動時にリコイルスタータを全部引ききらないでください。
- リコイルスタータを引いた後急激に離さないでください。
- エンジン始動直後は急激に回転を上げないでください。
- 試運転時及び作業時に、不必要な無負荷運転・高速回転での使用は避けてください。

エンジンの始動と停止

◇ エンジンの始動

1. プライミングボタンを繰り返し押ししてください。
半透明のパイプに燃料が通り、気泡が無くなるまで押しください。
2. チョークレバーを『閉』にします。
(エンジンが暖かい場合は『開』にします。)
3. ストップスイッチを『運転』側にします。
4. スロットルレバー・ロックレバーから手を離し、スロットルを『全閉』にします。
5. 刈刃やスロットルレバーが障害物に触れていないことを確認し、機体をしっかり支えてリコイルスタータを数回引き、始動してください。
6. 爆発音がしても始動しない場合は、チョークレバーを『開』にして、再度リコイルスタータを引いてください。
7. 始動後、エンジンの調子を見ながら徐々にチョークレバーを『開』にします。
8. 十分な暖機運転を行ったうえで、スロットル操作をしてください。

※始動方法は「エンジン取扱説明書」もご覧ください。

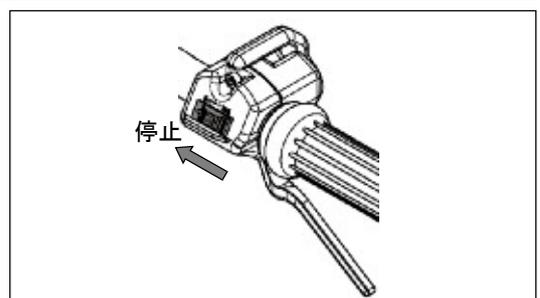


◇ エンジンの停止

▲ 警告

- 刈刃が完全に停止したことを確認してから、機体を安定した安全な場所に置いてください。
重大な傷害を負う可能性があります。

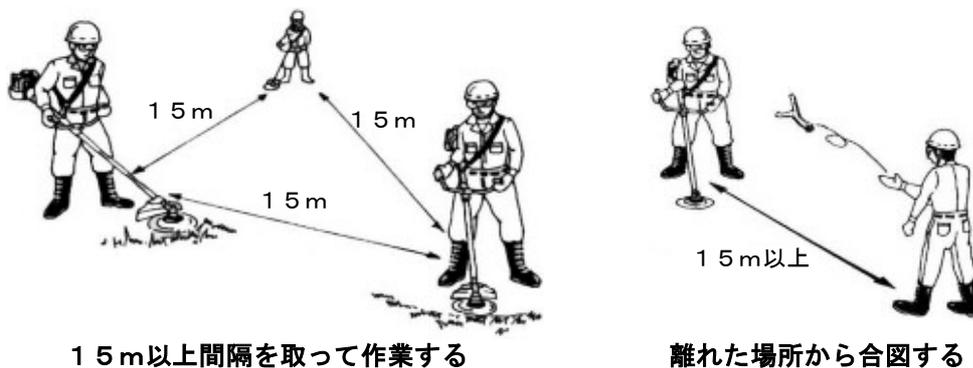
1. スロットルレバー・ロックレバーを離し、スロットルを『全閉』にします。
2. ストップスイッチを『停止』にします。



刈払作業

⚠ 危険

- 作業者の半径 15 m 以内に人や動物を近づけないように、以下のことを守ってください。
 - 標識ロープで囲むなど、作業者の 15 m 以内に人が入らないようにしてください。
 - 誰かが近づいてきた時は、エンジンを停止させ、刈刃を止めてください。
 - 作業者に近づく際は 15 m 以上離れた場所から木切れを投げる等で合図し、エンジンが停止したことを確認してから必ず作業者の前方から近づいてください。
 - 複数人で作業する場合は監督者を置き、お互い合図をしながら 15 m 以上離れて作業してください。死亡事故や重大な傷害を負うことになります。



⚠ 警告

- 作業前に作業場所を点検し、石・ビン・カンなどの障害物を取り除いてください。
刈刃が障害物と接触すると障害物が飛散し、重大な傷害を負う可能性があります。
- 刈払い作業は適度に休憩をとりながら行ってください。
振動・騒音等による健康障害の可能性があります。
27ページにある『振動障害の予防のために』を参考にして、一日の作業量を規制してください。
- 作業中は、石・金属などに刈刃を接触させないでください。
刈刃が破損・飛散し、重大な傷害を負う可能性があります。
万が一、刈刃が石などの障害物に接触したときは、エンジン・刈刃を停止させてから刈刃を点検してください。異常がある場合は新しい刈刃に交換してください。
- 作業中に機械の異常を感じた場合は、ただちにエンジン・刈刃を停止させてください。
確実にエンジン・刈刃を停止させてから、点検・修理を行ってください。
重大な傷害を負う可能性があります。

刈払作業

⚠ 警告

- 草などが巻き付いた場合は、エンジン・刈刃を停止させてから取り除いてください。
事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- 機体を大きく振りまわして使用しないでください。
事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- 木に押しつけるような使用をしないでください。
危険なうえ、ギヤなどが破損したり、本体パイプが曲ったりする恐れがあります。

⚠ 注意

- 作業に応じてエンジンの回転数を調節してください。
エンジンの回転数が高すぎると、故障の原因や耐久性を損なう場合があります。
エンジンの回転数が低すぎると、クラッチの磨耗を早めたり、草が巻きつき易くなったりします。

●作業方法・手順

1. 肩掛バンドを着用し、フック部を吊り金具に掛けてください。
2. 自然な姿勢で肩掛バンドがたるみなく張るように各部を調整してください。
3. 両手でしっかりとグリップ部を握ってください。
4. ゆっくりと刈刃を左右に振りながら草を刈ります。
5. 草の量によって回転を調整しながら作業してください。

日常の点検と整備

⚠ 注意

- 部品は必ず純正部品をご使用ください。
- 点検・整備を行うときは、機体を水平な場所に置き、エンジンを止めて行ってください。またエンジンは完全に冷えた状態で行ってください。
- 誤ってエンジンがかからないようにプラグキャップをはずしてください。
誤ってエンジンがかかった場合傷害を負うおそれがあります。
- 本製品をより長く安全にお使いいただくために、定期的な点検と整備をおこなってください。
- 点検・整備の方法が分からない場合は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

◇ 定期点検一覧

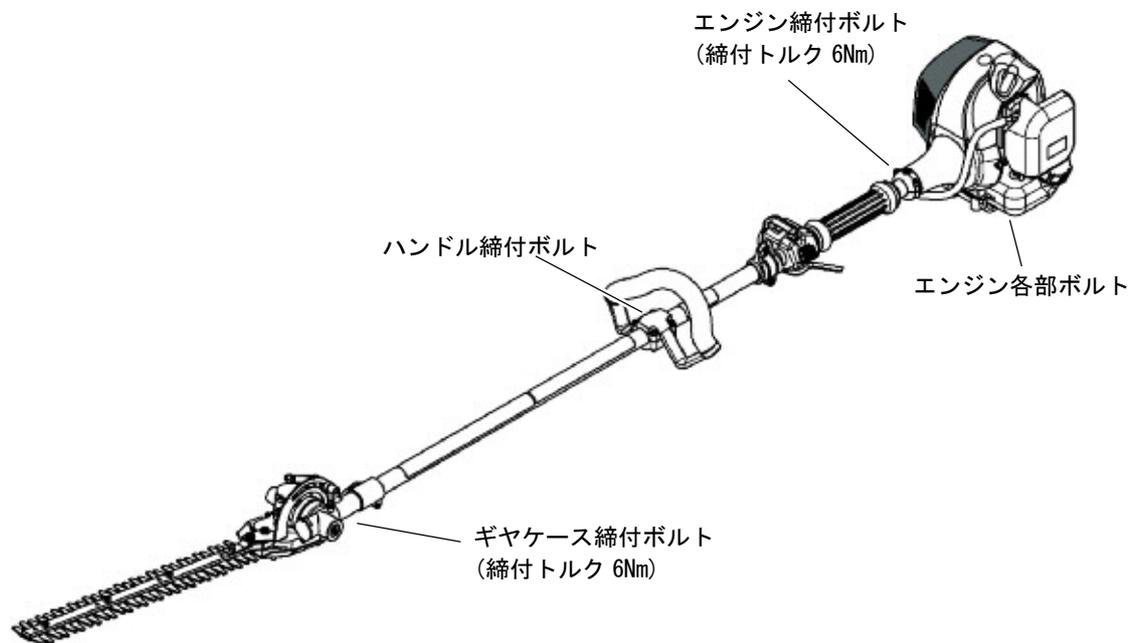
点検・整備項目	毎作業前	20時間毎	50時間毎	参照
各部ボルト・ナットの点検・増締め	○			P19
燃料漏れ・排気漏れの点検	○			P19
スロットルワイヤーの点検・調整	○			P20
エアクリーナの点検・清掃	○			P20
キャブレターの調整	○			P21
冷却風通路の点検・清掃	○			P21
刈刃の点検・調整	○			P22
ギヤケースにグリース注入		○		P23
燃料フィルタの点検・清掃			○	P23
点火プラグの点検・清掃			○	P24
マフラー・シリンダのカーボン除去			●	P24
点火プラグの交換	100時間毎			-
燃料配管（燃料パイプ・グロメット）の交換	2年毎			-

●印の項目は、高度な技術や工具などが必要ですので、販売店に依頼して下さい。
エンジン部の点検は別冊のエンジン取扱説明書も併せてお読みください。

日常の点検と整備

◇ 各部ボルト・ナットの点検・増締め（毎作業前）

- 代表的なボルト・ナット点検箇所および締付トルク参考値

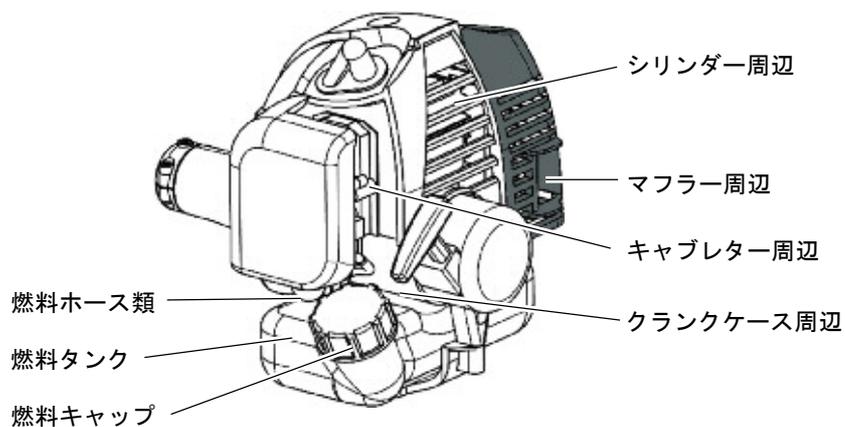


◇ 燃料漏れ・排気漏れの点検（毎作業前）

▲ 警告

- エンジンの各合わせ面から燃料漏れ・排ガス漏れが生じた場合は、即座に使用を中止して販売店にて修理をしてください。また、修理が完了するまで使用しないでください。火災や火傷を負う可能性があります。

- 代表的な燃料漏れ・排気漏れの確認箇所



日常の点検と整備

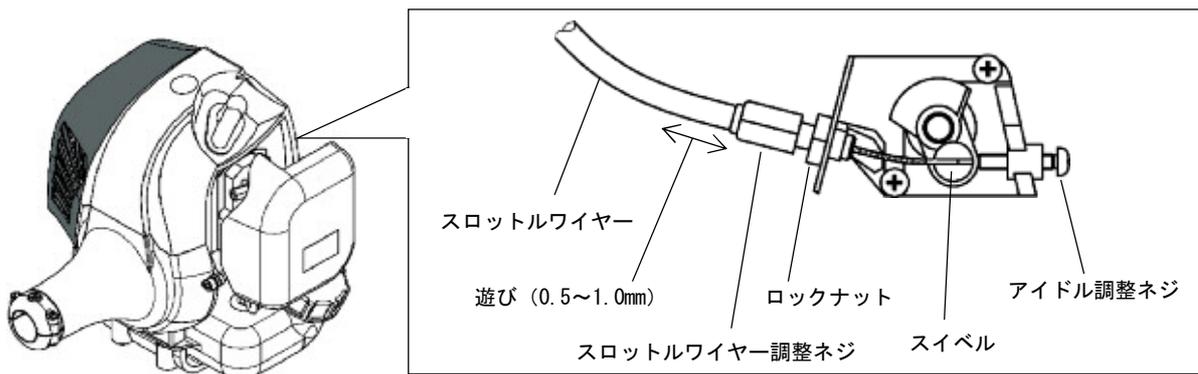
◇ スロットルワイヤーの点検・調整（毎作業前）

⚠ 注意

● 作業前に必ずスロットルワイヤーの調整を行ってください。

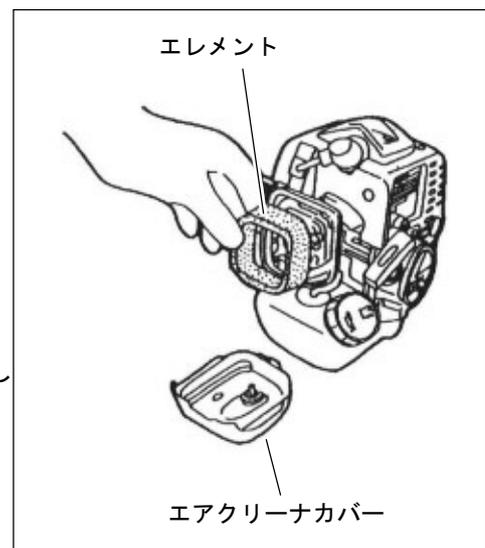
調整せずに使用した場合、レバーを戻しても刈刃が止まらない場合があります。また、スロットルワイヤーがスロットルワイヤー調整ネジから外れて、思わぬ回転上昇となることがあります。

- スロットルワイヤーがスムーズに動くことを確認してください。
スムーズでない場合は清掃・給油・調整等を行い、必要な場合は交換してください。
- スロットルワイヤーの遊びを下記の手順で調整してください。
 1. スロットルレバーから手を離し、『全閉』状態にしてください。
 2. ロックナットを緩め、スロットルワイヤー調整ネジを回してワイヤーの遊びが
0.5～1.0mmになるように調整し、ロックナットを締めて固定します。
 3. スイベル部がアイドル調整ネジに当たっていることを確認してください。



◇ エアクリーナの点検・清掃（毎作業前）

- エアクリーナのエレメントが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良をおこします。
- 以下の手順でエアクリーナを点検・清掃してください。
 1. エアクリーナカバーを開きます。
 2. エレメントを取り出し、状態を確認してください。
 3. エレメントが劣化している場合は交換してください。
 4. エレメントを白灯油で洗浄し、エンジンオイルに浸して固くしぼってから取り付けます。



日常の点検と整備

◇ キャブレターの調整（毎作業前）

▲ 注意

- **キャブレターはアイドル調整ネジ以外を調整しないでください。**

キャブレターは工場出荷時に最適調整してあります。ご自分での調整はアイドル調整ネジのみとし、その他の調整は販売店にご相談ください。むやみに調整をするとエンジン不調の原因となります。

- 下記要領でアイドルリング回転数を適正に調整してください。

スロットルレバーから手を離し、『全閉』状態にして、エンジンを始動させます。

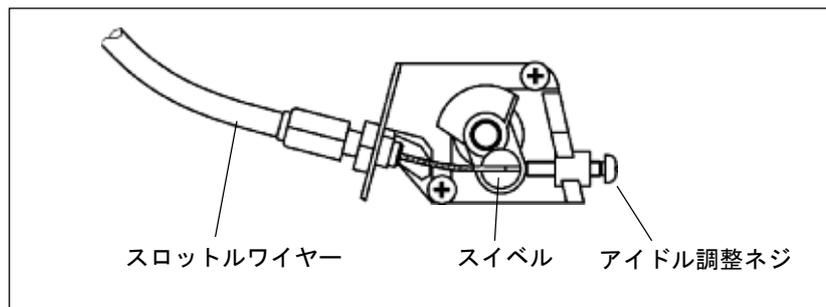
- 始動後、刈刃が回転している場合

アイドル調整ネジを左へ回し、アイドルリング回転数を下げてください。

- エンジンが始動しない、または始動後にすぐ止まる場合

アイドル調整ネジを右へ回し、アイドルリング回転数を上げてください。

調整後もエンジンの調子が悪い場合は、販売店へ修理を依頼して下さい。



◇ 冷却風通路の点検・清掃（毎作業前）

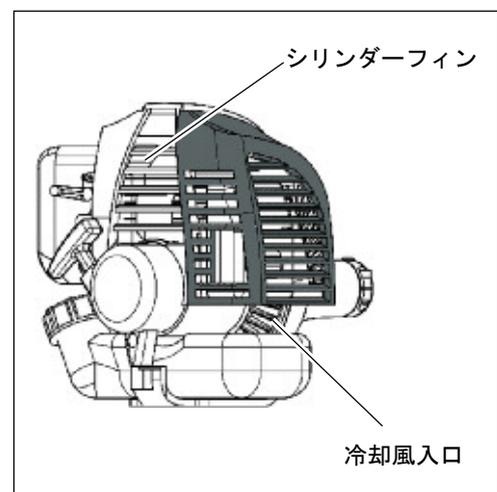
▲ 注意

- **冷却風通路が詰まった場合はすぐに取り除いてください。**

冷却風通路が詰まったまま作業をするとエンジンの焼付きの原因になります。

- 冷却風の入口や通路にごみ・枝等が詰まっている場合は必ず取り除いてください。

- 冷却風通路の詰まりによる焼きつき等の不具合は保証の対象外になります。



日常の点検と整備

◇ 刈刃の点検・調整（毎作業前）

⚠ 警告

- 異常のある刈刃は絶対に使用しないでください。

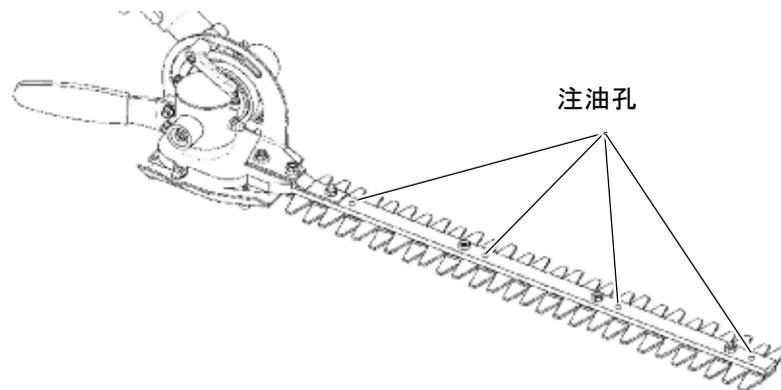
刈刃の損傷や振れ等は、刈刃の破片の飛散や振動増加による健康傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 刈刃の点検・調整は必ず手袋を着用して行ってください。
- 使用直後はギヤケース部が熱くなっていますので、冷ましてから点検してください。
- 刈刃が水に濡れた状態で放置しないでください。
- ギヤケース部を水没状態にしないでください。

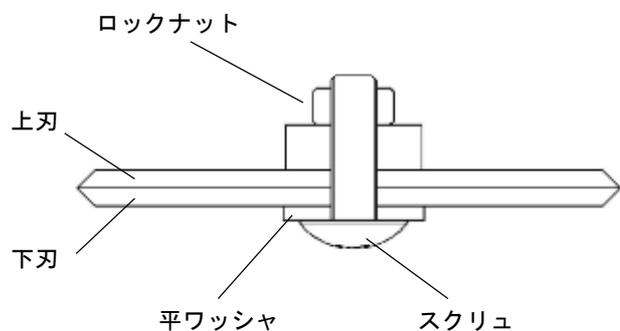
水により油切れを誘発し、刈刃の摩耗など故障の原因となります。

- 刈刃に草等がからみついたり、ごみ等が詰まった場合は除去してください。
- 使用前・使用后、燃料補給時や休憩時などに刃部に注油してください。
- 水に濡れた場合は、刈刃を下に向け立て掛け、水を抜いてから注油してください。



- 上下の刃にすき間がある場合は、次の要領で締め代を再調整してください。

1. ロックナットをゆるめてください。
2. スクリューをいったん完全に締め込んでから $1/3 \sim 1/2$ 回転戻します。
3. スクリューを固定しながらロックナットを締め付けてください。
4. 平ワッシャが指で回ることを確認してください。



- 刈刃が摩耗してすき間調整ができない場合は、お買い上げ店に交換を依頼してください。

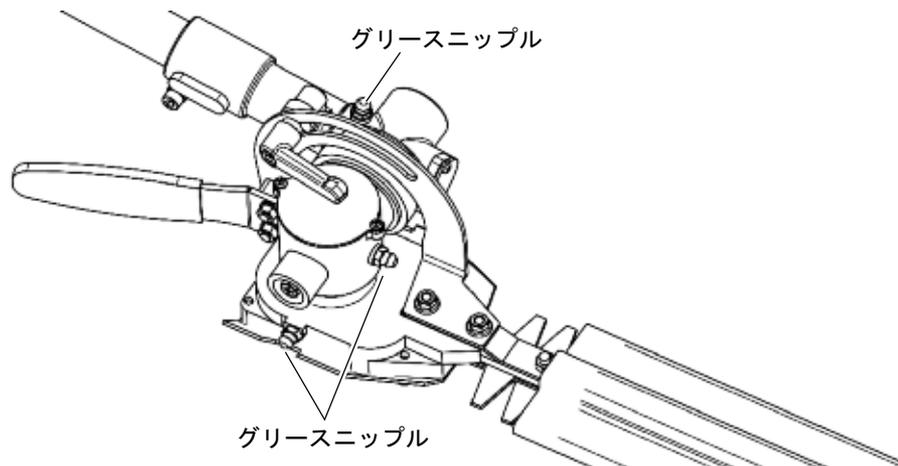
日常の点検と整備

◇ ギヤケースにグリース注入（20時間毎）

▲ 注意

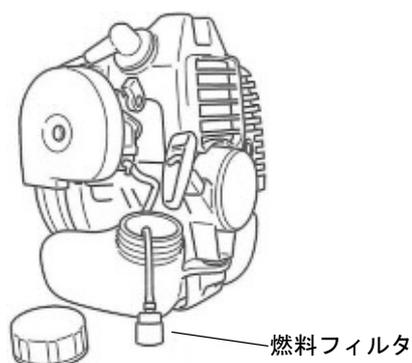
- 使用直後のギヤケースは熱くなっていますので、冷ましてから整備してください。
- ギヤケース部は常に点検と整備を心がけてください。
整備されないまま使用すると機械が破損し、重大な傷害を負う可能性があります。
- ギヤケース内に砂利・ゴミなどが混入しないように十分注意してください。
ギヤケース破損の原因になります。
- 危険ですので刈刃にブレードカバーを取り付けてから作業してください。

- 補充時はグリースガンを使い、3ヶ所のグリースニップルからグリースを注入します。
グリースは耐熱用のリチウム系グリースを使用してください。
(弊社指定のグリースは出光ダフニーエポネックスグリースNo.1 又はNo.2です。)



◇ 燃料フィルタの点検・清掃（50時間毎）

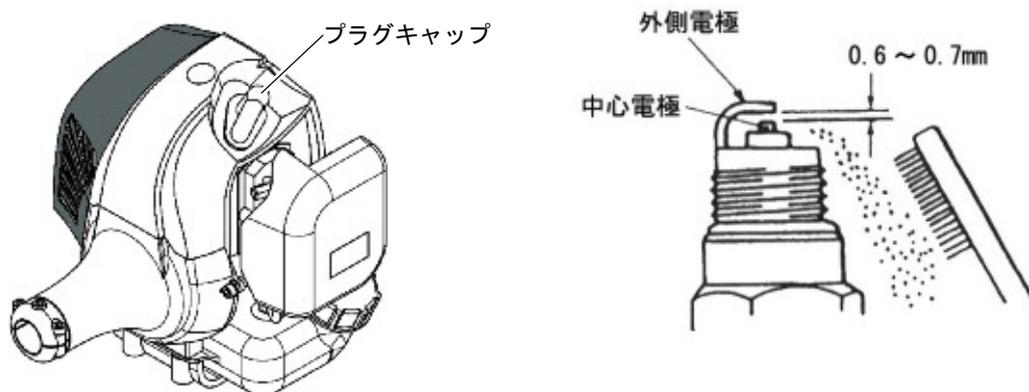
1. 燃料タンクから燃料フィルタを取り出します。
2. きれいな白灯油で洗浄します。
3. 汚れがひどい場合は燃料フィルタを交換のうえ、タンク内の洗浄もしてください。



日常の点検と整備

◇ 点火プラグの点検・清掃（50時間毎）

1. プラグキャップを外し、付属のボックスレンチでプラグを外します。
2. 電極部にカーボン等が堆積している場合はワイヤーブラシ等で清掃してください。
3. 点火プラグの電極すき間は0.6mm～0.7mm（はがき3枚分程度）が適正です。広すぎたり、狭すぎたりするときは調整してください。
4. 中心電極や外側電極の消耗がひどい場合はプラグを交換してください。



◇ マフラー・シリンダのカーボン除去（50時間毎）

- マフラー・シリンダのカーボン除去には、高度な技術や工具などが必要ですので、販売店へ依頼して下さい。

長期保管をする場合

注意

- 燃料や火気の近くに保管しないでください。
- 燃料を入れたまま長期間放置しないでください。
燃料の劣化によりキャブレターや燃料フィルタなどの詰まりの原因となります。

- 長期間使用しないときは次の要領で整備してください。
- 本体
 1. 各部についた草の汁・泥などをよく落とししてください。
 2. 清掃後、金属部分には油分を塗布し発錆を防止します。
 3. 各部を点検し、損傷箇所は修理し、消耗品は交換します。
 4. 刈刃ヘブレードカバーを取り付けて格納してください。
- エンジン
 1. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
 2. キャブレターや配管内の燃料はキャブレターのプライミングボタンを押して抜き取ります。
 3. エンジンを始動し、止まるまで運転します。
 4. 燃料タンク内部及び燃料フィルタを新しい白灯油で洗浄します。
 5. 点火プラグを外し、プラグ穴に新しい2サイクル専用オイルを少量注入します。
 6. 点火プラグを外したまま、リコイルスタータでゆっくり数回空転させます。
 7. 点火プラグを取り付け、再びリコイルスタータを引っ張って重く感じる位置で止めます。
 8. 外面を柔らかい布で清掃し、湿気が少なく火気のないところに保管してください。

故障と対策

⚠ 注意

- 部品は必ず純正部品をご使用ください。
- 少しでも異常を感じたらそのまま使用せず、点検・修理をしてから使用してください。異常のあるまま使用しないでください。
- 必要以上に分解しないでください。
- 下記表に記載されていない故障等、ご不明な点は販売店にご相談ください。

故障内容	原因	対策
エンジンが始動しない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料切れ ・ 始動操作ミス ・ 点火プラグ不良 ・ コイル、イグナイター不良 ・ キャブレター不良 ・ ストップスイッチが停止位置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料補給、交換 ・ P 1 5 を参照 ・ 清掃、交換 ・ 交換※ ・ 清掃、交換※ ・ 運転位置にする
エンジンが加速しない	<ul style="list-style-type: none"> ・ スロットルワイヤー調整不良 ・ エアクリーナエレメントの詰まり ・ 燃料経路の詰まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 2 0 を参照して調整 ・ 清掃 ・ 清掃
振動が大きい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部のゆるみ ・ ドライブシャフトの曲がり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増締め ・ 交換※
排気音が大きい	<ul style="list-style-type: none"> ・ マフラーのゆるみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増締め
エンジンの回転は正常だが刈刃の切れが悪い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刈刃の磨耗 ・ 上下刈刃は間にすき間がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交換又は研磨 ・ P 2 2 を参照して調整
エンジンの回転を落としても刈刃が止まらない	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラッチスプリングの折損 ・ キャブレター調整不良 ・ スロットルワイヤー調整不良 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交換※ ・ P 2 1 を参照して調整 ・ P 2 0 を参照して調整
エンジンの回転を上げてても刈刃が回転しない	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライブシャフトの折損・摩耗 ・ ギヤの磨耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交換※ ・ 交換※

※印の項目は、高度な技術や工具などが必要ですので、販売店に依頼して下さい。

振動障害の予防のために

◇ 振動障害の予防

厚生労働省より、「国際標準化機構（ISO）、海外での取組状況等を踏まえて、振動工具の振動加速度のレベルに応じて、振動にばく露される時間を抑制することなどを内容とした新たな振動障害予防対策に取り組むことが必要」との指針が出されました。

詳細は安全衛生情報センター：通達一覧より：平成21年7月10日：基発0710第2号
安全衛生情報センターホームページ

(<http://www.jaish.gr.jp/>)

平成21年7月10日：基発0710第2号

(<http://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-50/hor1-50-27-1-0.htm>)

◇ 日振動ばく露量A(8)について

- 「周波数補正振動加速度実効値3軸合成値a」と一日当たりの「振動ばく露時間T」から下記の式や次項のノモグラフを用いて「日振動ばく露量A(8)」を求めて下さい。

$$\text{日振動ばく露量：} A(8) = a \times \sqrt{\frac{T}{8}} \quad (\text{m/s}^2)$$

- 周波数補正振動加速度実効値3軸合成値a：機械から発生している振動を数値化したもの
- 振動ばく露時間T：一日に上記の機械を使用（運転）した時間の合計
- 「日振動ばく露量A(8)」が「日振動ばく露限界値（5.0 m/s²）」を超えることがないよう「振動ばく露時間T」を抑制してください。
- 「日振動ばく露量A(8)」が「日振動ばく露限界値（5.0 m/s²）」を超えない場合であっても、「日振動ばく露対策値（2.5 m/s²）」を超える場合は、「振動ばく露時間T」の抑制に努める必要があります。
- 一日当たりの「振動ばく露時間T」は2時間以下としてください。
- 周波数補正振動加速度実効値3軸合成値は、本書の仕様欄か製品の本体部ラベルを参照してください。
- 周波数補正振動加速度実効値3軸合成値は、機種・型式・区分により数値が異なりますのでご注意ください。

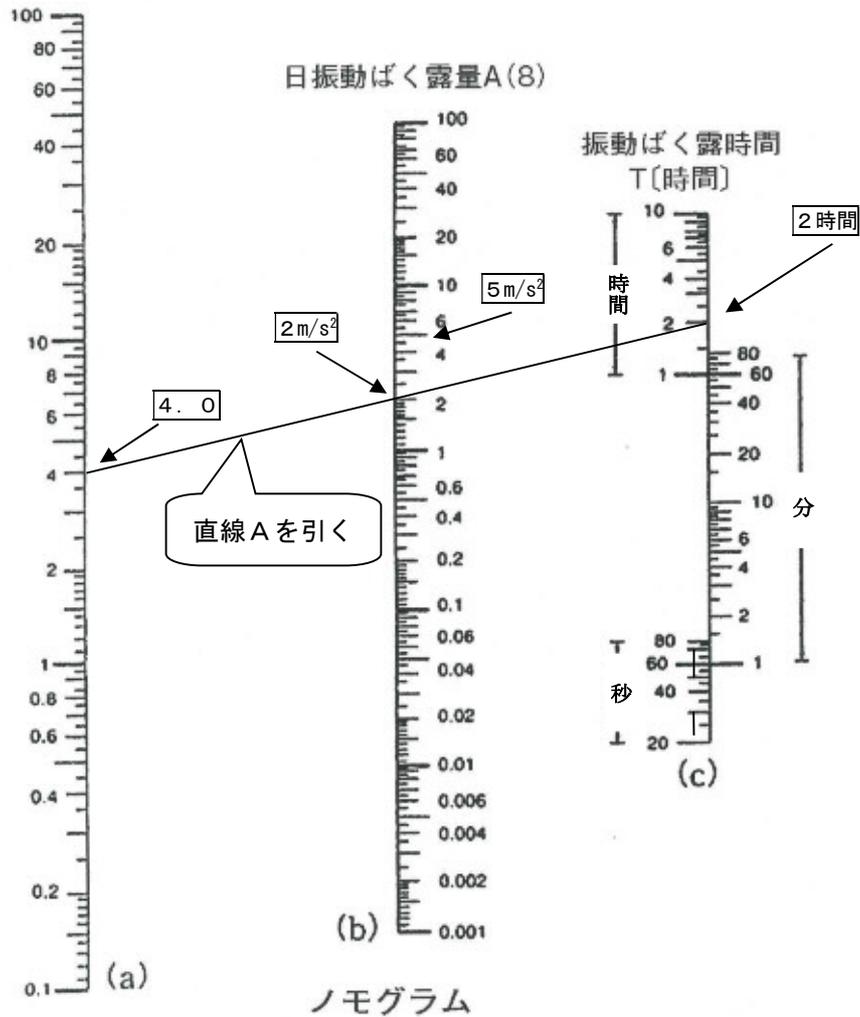
振動障害の予防のために

◇ 日振動ばく露量A(8)の算出

- 日振動ばく露量A(8)は、下記のノモグラムからも求めることができます。
 1. (a)に「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値a」をプロットします。
 2. (c)に「振動ばく露時間T」をプロットします。
 3. その2つの点を直線Aで結びます。
 4. (b)と直線Aの交点が「日振動ばく露量A(8)」です。

例：「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値a」が4.0m/s²で、
 「振動ばく露時間T」が2時間の場合、
 「日振動ばく露量A(8)」は2m/s²となります。

周波数補正振動加速度実効値
 の3軸合成値 a[m/s²]



振動障害の予防のために

◇ 複数の振動工具を一日のうちに使用する場合

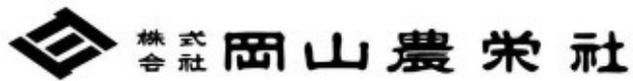
一日に複数の振動工具を使用する場合、下表を利用して個別の作業ごとの「振動ばく露量 $A_i(8)$ 」を求め、最終的な「日振動ばく露量 $A(8)$ 」を算出し、その振動ばく露時間が「日振動ばく露限界値 ($A(8): 5.0 \text{ m/s}^2$)」及び「日振動ばく露対策値 ($A(8): 2.5 \text{ m/s}^2$)」を超えるかが判断できます。

	個別の作業番号						合計	日振動ばく露量 $A(8)$
	1	2	3	4	5	6		
$A_i(8)$							$\sum A_i(8)^2$	$A(8) = \sqrt{\sum A_i(8)^2}$
$A_i(8)^2$								

- ① 前項のノモグラムに、個別作業で算出した「日振動ばく露量 $A(8)$ 」 m/s^2 を上記の表に記入します。複数の場合は繰り返し記入してください。
- ② 個々の作業 $A_i(8)$ の2乗を計算し、全ての作業別の値の合計 ($\sum A_i(8)^2$) を求め、上記の表に記載します。
- ③ ②で求めた値の平方根 ($A(8) = \sqrt{\sum A_i(8)^2}$) を求め、表に記載します。この値が「日振動ばく露量 $A(8)$ 」になります。

「日振動ばく露量 $A(8)$ 」の算出は、安全衛生情報センターホームページ内にある「日振動ばく露量 $A(8)$ の計算テーブル」を使用して求めることができますのでご活用ください。

(http://www.jaish.gr.jp/information/mhlw/nichishindo_bakuroyo.xls)



本社営業所 岡山市中区雄町字八反田 394-3 (086)279-6100
北海道(営) 旭川市工業団地 5 条 3 丁目 3 番 1 号 (0166)36-5115
東北(営) 仙台市宮城野区萩野町 4 丁目 2-44 (022)232-5609
関東(営) 群馬県伊勢崎市粕川町 1616 (0270)21-8127
九州(営) 熊本市東区健軍 3 丁目 45-13 (096)368-7407
本社工場 岡山市中区雄町字八反田 394-3 (086)279-0313

お客様メモ

購入日	平成	年	月	日
購入店名				

IT

F020-C-0140130